

アンコール廢墟最近の巡訪とカンボ ヂアに於ける佛教古代美術

余は専ら印度學に従事し、已にアジアに過した事は十二年を超え、研究の特殊問題に佛教美術を擇んでゐるが、日本へは漸く來た次第である。終に幸にして日本を訪づれる事が出來、而も福井教授の尊い指導を得て、京都や奈良の古佛寺を訪ふ好機に接したので、今も猶ほ日本建築の極めて特殊な魅力に打たれるのである。白砂の上、常緑の中にある、簡素な建物から得る深い印象を味つた今、余に取つては、此の新しい經驗から頗る思ひ設けぬ結果を得たので、若し、之が數週間も前の事であれば、些の躊躇する所もなく云つた事も、今日では憚る譯である。即ち、余は、アンコール Angkor で花を開いた印度建築の方式に對する絶對的嘆美を諸君に希ふものであるが、日本の建築との間に餘りの距離がある事を知つたので、之に入る前に、豫め附言しておきたい位である。此のアンコールでは、その歩廊は際限もなく延び、四角な牆